

家庭画報

4

April 20:
KATEIGAHO

花見弁当で春を味わう

フィギュアスケート 花開くカップル競技

村元哉中&高橋大輔

三浦璃来&木原龍一

特別誌上販売

日本全国「いちご」図鑑

一度は見たい桜の名所

桜花爛漫

◆美しき南信州・伊那谷の桜風景と桜文化
◆伝説の桜守・笹部新太郎の遺産／造幣局の桜と江戸期の桜画

〈春夏最新コレクション〉

オーラを放つ時代の主役たち

柄本佑

Kinki Kids

黒木華／竹野内豊

長澤まさみ

眞栄田郷敦／宮沢氷魚

オランダの春便り
チューリップ花絶景

石川さゆりの変身大公開
洗練ショートヘアで
軽やかに

香川漆芸×フランクミュラー
世界で一つの
腕時計

海外ツアーも大好評!

家庭画報の旅

ザルツブルク音楽祭
経営ツアー7日間

松岡修造の

人生百年時代の“健やかに生きる”を応援する

健康画報

Vol.12



手術支援ロボット「ダヴィンチ」の
前に座る井坂恵一先生と、興味
津々の松岡さん。先生が副院長を
務める東京国際大附属病院にて

世界の医療現場で、手術支援ロボットを使う「ロボット手術」が増加するなか、2009年に日本初の婦人科ロボット手術を成功させた、井坂恵一先生。

患者にも医師にも優しいというロボット手術とはどんなものなのか？

70歳を過ぎた今も精力的に手術を行い、後進を育成する先生の健康法とは？

松岡さんの繰り出す質問の数々に、井坂先生は飾らずに答えてくださいました。

撮影／鍋島徳恭 スタイル／中原正登(FOURTEEN) (松岡さん)
ヘアメイク／大和田三美(APREA) (松岡さん) 取材文／清水千佳子

月に20件以上の手術をこなす体力の秘訣は？——松岡さん

動いて、疲れて、よく眠る。
シンプルですが、これに尽きます——井坂先生

医師、東京国際大堀病院ロボット手術センター長

井坂恵一先生

手術後すぐの取材だったため、松岡さんが「お疲れですよ」と気遣うと、「全然大丈夫ですよ。ダビンチの手術は座ってできるので、体が楽なんです」と井坂先生。



松岡 井坂先生は日本におけるロボット手術の第一人者でいらして、現在も手術なさっているそうですね。

井坂 5年ほど前に退官した大学病院にいたときよりしていますね。

松岡 今のほうが多いんですか？

井坂 ええ。以前は月に5、6件でしたが、今はこちら(東京国際大堀病院)のほかに4つの病院へ行っていて、合わせると、月に20件くらい手術していると思います。

松岡 3倍以上ですね！ 先生のお立場なら、もっと楽をする選択もあると思うのですが、どうしてそんなに手術されるんですか？

井坂 昔から頼まれたら断れないんです(笑)。もともと、自分が手術をするばかりではなく、後進の育成もしなければいけないと気づいてからは、こちらにも力を入れています。

松岡 そんなにお仕事をされて、お疲れになりませんか。

井坂 やはり若い頃とは違って疲れますね。でも、ロボット手術だと、疲れ方が全然違うんです。

医師が座って行える
画期的なロボット手術

井坂 悪性腫瘍(がん)の内視鏡手術などは60歳を過ぎると辛いものなんです。手術で何時間も立ち続けると疲れし、集中力も落ちてくる。目もよく見えない。だから、定年間の教授は手術が下手な人が多いですよ。

松岡 先生、ずいぶん厳しいことをおっしゃいますね(笑)。

井坂 でも、本当に危ないですから。悪性腫瘍の内視鏡手術は難しいので、一人前になるのに20年、30年かかります。ところが、せっかく一人前になっても加齢による視力や体力の衰えで短い月しか手術ができないという現実がある。もったいないですよ。でも、手術支援ロボットのダビンチを使えば続けられるんです。まず、座ってできるのが大きい。

松岡 そんなに違いますか？

井坂 違います。あと、ダビンチのカメラは自分で思ったところに移動できて、いくらでも拡大できるから、目が悪くても大丈夫なんです。カメラにぶれ防止機能がついているのもいい。カメラを助手に持ってもらうと、どうしてもかすかに震えてしまいますから。僕はロボット手術をしていなかったら65歳くらいで手術はやめていたと思いますね。

松岡 今も手術ができるのは、ロボットののおかげということですか？

井坂 はい。同級生からは、まだ手術しているのかと驚かれますが、僕はロボット手術に出会って、非常にラッキーだと思っています。

松岡 ダビンチとの出会いで、よりよい手術ができていて、自分も進化していると感じられますか？

井坂 そうですね。今も日々、「こんなこともできるのか」といった発見があり、楽しいですよ。だから、月に20件でも苦になりません。

松岡 先生にとって、ダビンチとはどのような存在なのでしょう？

井坂 そうですね……恩師ですかね。

松岡 恩師!? ご自分よりも上の存在なんですか?

井坂 いろいろ教えてくれて、僕らが今までできなかったことをどんどんやらせてくれますから。

初めは蹴とばしていった。 ダビンチとの出会い

松岡 恩師とまでおっしゃるダビンチを、最初にご覧になったときはどう思われましたか?

井坂 初めは蹴とばしてました。

松岡 蹴とばしてた?

井坂 大病院に置いてあったのですが、大きいので邪魔なんです。ロボットを使っても、あまりうまくいくとも思えませんでしたし。

松岡 何がきっかけで使うようになったのですか?

井坂 前立腺がんの手術で先に使用された泌尿器科の先生からすすめられたんです。使ってみたら素晴らしいので、世界が変わりました。

松岡 どんなふうに変わったのか、教えていただけますか?

井坂 医師の立場でいうと、短期間で技術を修得できるのが大きいです。細かい鉗子操る腹腔鏡手術は難しく、最低でも1年は訓練しないとできません。ダビンチの場合、医師は両手の2本の指に装着したセンサーを通じて、ロボットのアームの先につけた鉗子を動かすのですが、驚くことに、自分の手が鉗子そのものになったような感覚でできるのです。ですから、早ければ1か

月くらいで覚えられます。

松岡 手のように動かせるんですか。

井坂 ええ。ですから、繊細な処置もそれほど難しくありません。あと、ダビンチのカメラだと細部まで大変よく見えるので、解剖学的な部分が前よりわかるようになりました。

松岡 患者さんにとつての利点にはどんなものがありますか?

井坂 大きく切開しないため、体への負担も痛みも少なく、回復が早いことです。入院期間も短くてすみずみです。

松岡 先生のお話を伺っていると、手術は全部ダビンチにしたらいいうに思えてきます。

井坂 海外に比べると日本は遅れていますが、保険適用になった術式ほとんどはダビンチにシフトしています。競合するロボットも増えてきましたし、ロボット手術はこれからどんどん増えていきますよ。

人間の頭や体は 使い続けたほうがいい

松岡 先生の元気の源はダビンチのようないい気分ですか?

井坂 そうかもしれませんね。

松岡 ほかに何か、健康のためされていることはありますか?

井坂 睡眠時間を多くとるようになっています。昔は毎日4、5時間で平気でしたが、今は無理なので、8時間睡眠を心がけています。

松岡 そんなに眠れますか? 睡眠については少し勉強しましたが、年齢を重ねると、なかなか長時間眠れなく



ダビンチは3つの機械からなり、その1つが松岡さんの右にある4本のアームを持つロボット。井坂先生は別の機械を通してアームについている鉗子やカメラを遠隔操作し、子宮がんなどの手術を行います。

松岡修造さん(まつおかしゅうぞう)

1967年東京都生まれ。86年にプロテニス選手に。95年のウィンブルドンでベスト8入りを果たすなど世界で活躍。現在は日本テニス協会理事兼強化本部副本部長としてジュニア選手の育成・強化とテニス界の発展に尽力する。また、テレビ朝日「報道ステーション」、フジテレビ「くいしん坊!万才」などに出演中。「修造日めくり」シリーズや「教えて、修造先生!」心が軽くなる87のことば」など著書多数。ライフワークは応援。公式インスタグラム@shuzo_dekiru

(松岡さん)スーツ、シャツ、ネクタイ、チーフ、ベルト、靴／紳士服コナカ

最先端のロボットを
使うことで、みんなが
幸せになるんですね

松岡さん



なるものではないですか？

井坂 そういいいますが、僕は睡眠で悩んだことはありません。一所懸命働いて体を疲れさせれば、眠れます。「動いて、疲れて、よく眠る」です。

松岡 なるほど！ 先生は何歳まで手術したいと思われませんか？

井坂 ロボット手術なら、80歳まではできるかなと思っています。ただ、迷惑はかけられませんか、引き際はしっかり見極めなければなりません。

松岡 その見極めは、集中力がポイントになりますか？

井坂 集中力や反射神経、周りの声など、ポイントはいくつかありますね。

目標であり、励みにしているのは、100歳になった今も頭が切れる恩師です。

松岡 その恩師はダビンチのことでは

修造の健康エール

ロボット手術の第一人者ということで、難しい話になるかもと身構えていましたが、井坂先生のお話はわかりやすく、非常に興味深いものでした。「ダビンチの映像を観ましたが、ずいぶん大きく動かすんですね」と申し上げたら、「下手だと大きくなるんですよ」とおっしゃるなど、言葉の端々から気取らない正直なお人柄を感じられたのも楽しかった

ありませんね？

井坂 違います（笑）。現在も病院で診療をされているんですよ。

松岡 素晴らしいですね。人間は頭や体を使い続けたほうが健康に長生きできるのでしょうか。

井坂 そう思いますね。僕も、奈良の病院に月1回、茨城と千葉の病院に月2回ずつ通っていますから、結構動いています。毎日よく歩きますしね。

松岡 パワフルですね！

井坂 定年になったらゆつくりしたいという人も多いと思いますが、僕は仕事を続けているほうが楽しい。人助けにもなりますし、できる間はこの生活を続けていきたいです。

松岡 ぜひ、これからもダビンチとともに活躍ください。

です。長年患者さんと向き合い、手術を重ねてきた先生に、人間の体をどう捉えていらいしゃるのか伺ったところ、「強いですね。人間は回復力、再生力がすごい。病気になるって、適切な治療をすれば回復しますから」との力強いお答え。ときに病氣やケガに見舞われることがあっても、回復、再生を繰り返しながら、強く生きていきたいですね。

ダビンチのおかげで
80歳まで手術が
できそうです

井坂先生

井坂恵一先生(いさかけいいち)

1951年福島県生まれ。東京医科大学卒業後、スイス留学、イギリス留学を経て、2003年に東京医科大学産科婦人科学主任教授となる。日立製作所日立総合病院ロボット手術センター長を経て、20年から東京国際大塚病院の副院長兼婦人科部長兼ロボット手術センター長に就任。日本婦人科ロボット手術学会初代理事長、日本ロボット外科学会理事。著書に『ロボット手術と子宮がん』。日本で初めて手術支援ロボット「ダビンチ」を使った婦人科手術を成功させた。

病院の屋上で青空をバックに撮影。「ダビンチを操作しているイメージで」という松岡さんの発案で、このポーズに。先生は大学の相撲部出身で、松岡さんと同じくスポーツマンです。

